

2. 木津川市における地域公共交通の課題

本市の地域公共交通全体の維持を図るためには、それぞれが担う役割を認識し、集落と鉄道駅や公共施設を結ぶ役割であるバスの運行を活性化する必要がある。このことを踏まえ、アンケート調査結果やワークショップから伺った内容等をもとに次のとおり設定した。

2.1 確実な公共交通サービスの提供

2.1.1 持続可能な公共交通に向けて

アンケート調査やワークショップでは、コミュニティバスを必要とされる方、必要とされない方、双方の意見・要望があり、これらを集約しながら持続可能な公共交通が構築できるよう検討する必要がある。

2.1.2 人口構造の変化への対応

高齢化が進むエリア、一方で若年世代が多く住むエリアなど、地域の性質が大きく二極化している傾向にある。このため、まちの変化に合わせて、状況に応じた地域公共交通サービスを検討する必要がある。

2.2 利用しやすい公共交通サービスの提供

2.2.1 予約型乗合タクシーの利用促進

予約型乗合タクシーについては、特に高齢者層から「予約が難しい、煩わしい」との意見があり、予約・利用方法について更なる周知が必要である。

2.2.2 バリアフリー化の促進

高齢者や障害者が利用しやすくするため、今後、導入可能路線においてバリアフリー車両導入の検討が必要である。

2.3 地域公共交通の情報提供・利用促進

2.3.1 利用者減少への対応

外出頻度の減少や移動手段の変化に伴い、公共交通利用者は減少しており、地域公共交通サービスを持続するため、利用者の減少に歯止めをかける施策や、新たに利用を喚起する施策の検討が必要である。

2.3.2 利用促進施策の展開

わかりやすく利用しやすい公共交通をめざし、きづがわ公共交通だよりや、コミュニティバス時刻表の作成、1日乗車券のPR等を実施するとともに、さらなる利用促進のため、積極的に施策を展開していく必要がある。

2.3.3 多くの媒体を通じたPR

きづがわ公共交通だよりやホームページ、インターネット放送局などでバス運行等を周知しているが、コミュニティバスの利用状況、運行経費や割引サービスの認知度は低く、バスを利用頂いていない方にも興味を持っていただけるような内容を検討しコミュニティバスの必要性を広く周知することが重要である。

2.3.4 過度に自家用車に頼らない生活の提案

自動車は、自由に使える交通手段として、また目的地まで最も早く行くことができる移動手段として、多くの市民が利用している。しかし、高齢になると自動車の運転能力が低下し、これが交通事故発生の起因となることも考えられる。また、自動車を利用することで交通事故や渋滞が発生するなど、自動車によってもたらされる問題もある。これらを解消する方策として、移動手段の転換を促す施策の検討が必要である。

2.3.5 観光施設での PR

観光客の利便性を考慮し、案内板等を設置しているが、更なる利便性向上のため、より適切な案内表示を検討する必要がある。

2.4 各主体が連携した地域公共交通づくり

2.4.1 地域公共交通を守り育てる意識の醸成

これまで交通事業者が主体となり公共交通サービスを提供していたが、利用者なくして地域公共交通を維持することは難しく、市民が公共交通を守り、育てていく意識が大切である。このことから、市民、交通事業者・行政が一体となって地域公共交通の利用促進について取り組む必要がある。